



佐倉市民憲章

私たちは、印旛沼湖畔のきれいな空気と緑と太陽と歴史に恵まれた佐倉市民です。

全市民は、力を合わせてこの憲章を守り、理想のまちをつくりましょう。

- 一、私たちは、美しく清潔なまちをつくりましょう。
- 一、私たちは、公衆道徳を守り、スポーツを愛し、明るいまちをつくりましょう。
- 一、私たちは、歴史や自然を大切に、おくゆかしいまちをつくりましょう。
- 一、私たちは、老人を敬い、子どもを愛し、あたたかいまちをつくりましょう。
- 一、私たちは、創意と努力をもって、豊かなまちをつくりましょう。

(昭和45年12月23日制定) 佐倉市民憲章協議会

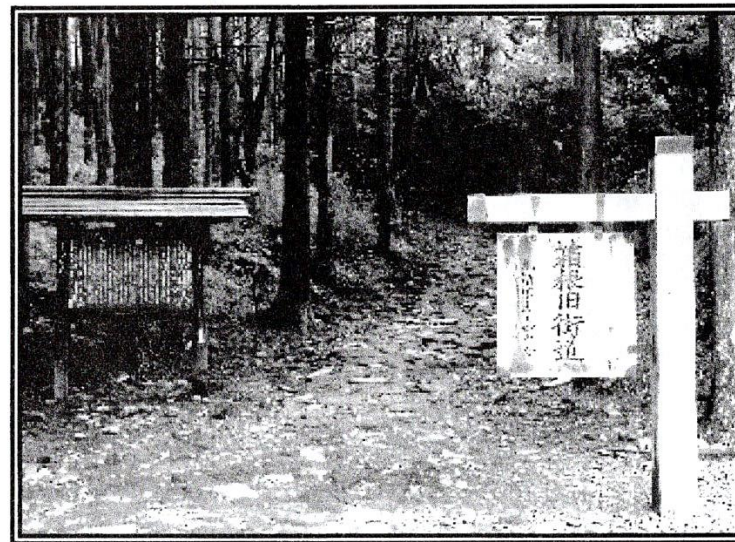
1618年江戸幕府は、箱根湯本から元箱根に至る山道を整備し、街道を作りました。この区間を含む旧小田原宿から旧三島宿の間は、特に当時は箱根の八里越えと呼ばれ、東海道の中でも難所中の難所と言われていました。今回の特別企画では、この旧街道沿いのハイキングコースを歩きます。標高は湯本で海拔120m、最高地点で820mで、標高差は約700mあります。

今回は特別企画なので、いつもの例会のように全員が揃って歩くハイキング形式ではありません。好きなコースを、ご自分のペースでこの冊子を片手にハイキングをお楽しみ下さい。事故無く楽しく終われることを心から願っています。

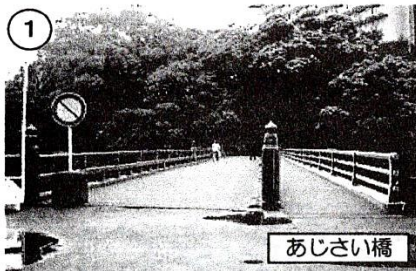
佐倉市民ハイキングクラブ幹事会一同

「箱根旧街道を歩く」

佐倉市民ハイキング 特別企画



平成19年10月1日(月)



あじさい橋

(1) 早川に架かる湯本大橋の上でバスを停めます。隣りに架かるあじさい橋のたもとが「旧街道」のスタート地点で案内板があります。川に沿って歩き始め、急な長い階段を登ります。道標に従い早雲公園を経て早雲寺へ向かってください。



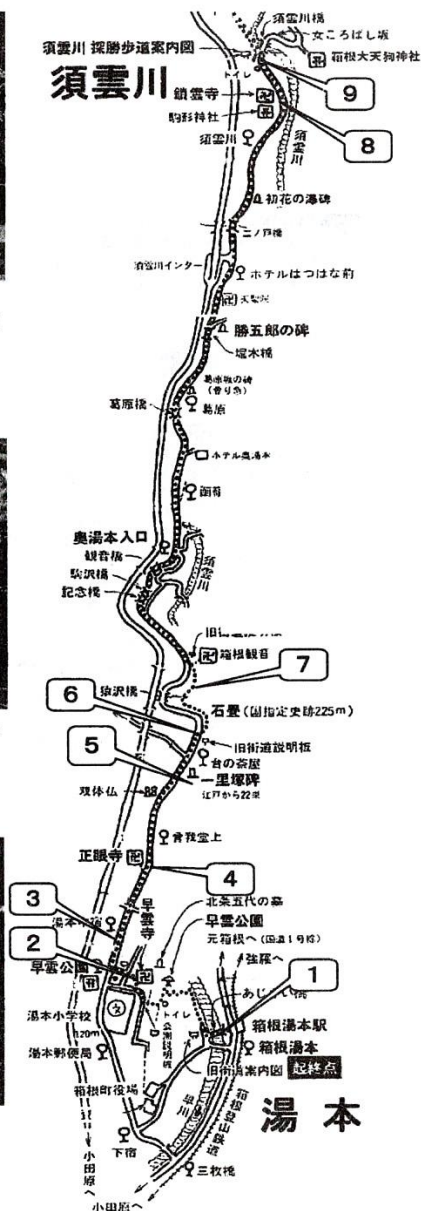
早雲寺

(2) 早雲寺は北条早雲の命により建立された寺で、小田原城を居城として関東一円を治めた戦国大名、後北条氏五代の墓があります。



県道732号

(3) 早雲寺の目の前を走る県道732号線に出たら、これを右へ進みます。しばらくこの県道を歩きますので交通事故には注意して下さい。



正眼寺

(5) 江戸幕府が慶長9年(1604年)大久保長安に命じ江戸ー京都間に1里ごとに旅人の目印として街道の両側に盛土をし、その上に通常、榎(えのき)を植えたのものです。一里塚は、畑畑に23番目が、元箱根の杉並木入口に24番目があります。(1里=36町=3,952m、1町=60間=110m)



石畳入り口

(7) 箱根旧街道と言えば、なんと言っても山道に敷き詰められた石畳が有名ですが、今回のハイキングで最初に現れる石畳が、この猿沢石畳です。これは、やがて後で何度も歩く事になる石畳の道の予告編とも言う感じで、全長255mと短めです。



鎖雲寺 霊泉の滝

(4) 10分ほど歩くと左手に、正眼寺が見えます。この寺には、源頼朝の側近を父親の敵として討ち取ったとされる、仇討ち話で有名な、曾我十郎と五郎兄弟の供養地蔵があります。

(5) 曾我堂上バス停を過ぎて200mほどの右側に日本橋より22番目の一里塚跡の碑があります。見落とさないように歩いて下さい。



一里塚 No.22

(6) 県道の長い上り坂を更に上って行くと、やがて右側に「石畳入り口」の道標が立っています。道標に従って右の道へ。



猿沢石畳

(8) 鎖雲寺の墓地には、正眼寺の曾我兄弟の様な、又また父親の仇討ち話として語られている飯沼勝五郎、初花夫妻の墓が並んで建っています。夫妻は、それぞれの兄や父親の敵を追って箱根の山に入ります。しかし勝五郎は病に倒れて歩けなくなってしまう、初花は必死の看病と願掛けをします。その甲斐あり勝五郎は元気を取り戻し、見事に仇を討つというお話です。



自然探勝道入口

(9) この辺りは道路が狭く、停車しづらいので、バスは須雲川バス停で停めます。降りて鎖雲寺の少し先まで歩くと左へ分かれる道があり、「須雲川自然探勝歩道」と記された道標が立っています。気持ちのいい林間コースが始まります。

(10) 自然探勝歩道をしばらく歩くと、須雲川に架かる丸太の橋が現れます。橋を渡り、東京電力畑宿発電所を横目に見ながら、一旦県道に出ます。

丸太橋が苦手な方はすぐ上流に吊橋（一度に3人しか渡れません）があり、どちらを選択されても結構です。すぐに同じ道に合流します。

Aコースの人は、冷たい水で汗をぬぐって、しばらく休憩しましょう。



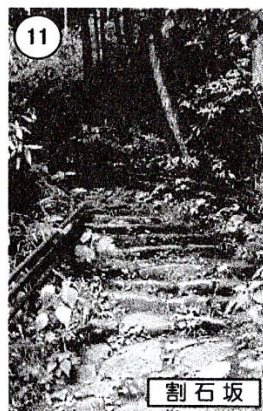
丸太橋



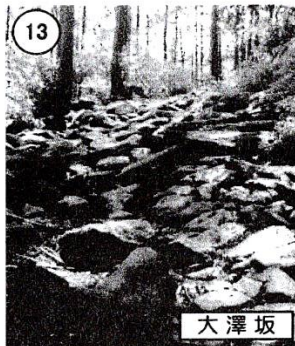
江戸時代の石畳

(12) 割石坂を上って行くと間もなく、山の中の道は石畳となり、傍らの案内板には「これより江戸の石畳」と記されています。この道を少し歩き、一度県道に出た後「箱根旧街道」への道標に従い、すぐにまた県道から左の道へ逸れます。そして、小さな橋を渡った先が石畳の坂「大澤坂」です。

(11) 県道を横切り、割石坂を上って行きます。案内板によると、昔この辺りで、曾我兄弟の第五郎が刀の試し切りをし、巨石を真っ二つに割ったところから、この坂の名が付いたとのこと。



割石坂



大澤坂

(14) ここ、畑宿の本陣は屋号を茗荷屋と呼ばれた旧名主の本屋敷跡で、庭は山間から流れる水を利用して滝を落とし、池にはたくさんの鯉を遊ばせた立派な庭園で、当時街道の旅人たちの評判になりました。ハリスやヒュースケンなど幕末外交の使者たちもこの庭を見て感嘆しています。

下田から籠で上京したハリスは箱根関所で検査を受けることになった。その際、ハリスと関所側は検査をめぐってトラブルが起き、下田の副奉行が中に入ってほとんど困り抜いたと云う。ハリスは「私はアメリカ合衆国の外交官である」と検査を強く拒否したことから副奉行がハリスを馬に乗せて籠だけ検査することで関所側と妥協した。ハリスは怒ったり笑ったりで関所を通った。そして畑宿本陣に着いてから彼が初めて見る日本式庭園の良さに心なごみ機嫌はすこぶる良くなったといっています。



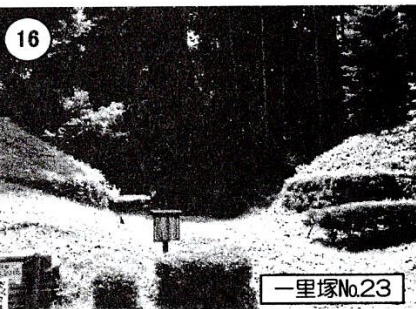
畑宿本陣跡



駒形神社

(15) 本陣の先、右手の階段を上ると駒形神社の境内で、隣接して寄木会館があります。1階のトイレをご利用下さい。昼食は神社の境内か寄木会館の駐車場で待機をしているバスの中で食べて下さい。12時から13時まで、寄木細工の実演もお願いをしております。一時間ほど見学とお買い物をお楽しみ下さい。

(16) かつての宿場町畑宿には、江戸から数えて23番目(90.8km)の一里塚がありました。現在、調査復元を終えたものが保存されています。(1里=36町=3,952m、1町=60間=110m) 寄木会館からすぐのところにありますので、Cコースの方も見学してからバスに乗って下さい。A、Bコースの方はここから再スタートします。



一里塚No.23



畑宿旧街道入口

(17) お弁当を食べ、寄木細工を見学したら、後半のスタートです。畑宿のバス停のそばから、旧街道が続きます。ここに入ってすぐのところに23番目の一里塚があります。(⑩参照)



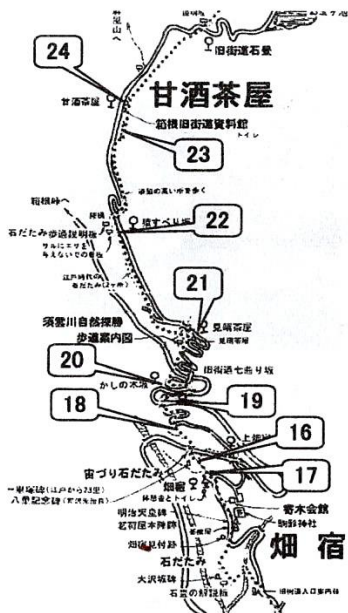
石畳の坂道

(18) しばらく森の中の石畳が続きます。

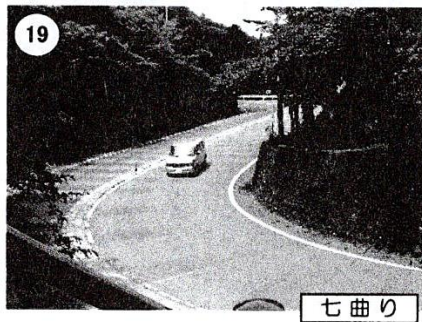


櫓の木坂

(20) 七曲りから左脇道へ、更に登って行く195段の階段があります。ここは櫓の木坂と言ひ、古文書にも「けわしき事、道中一番の難所なり」「櫓の木、さかをこゆればくるしくて、どんぐりほどの涙こぼる」と、東海道中最大の難所であった事が記されています。



(19) 畑宿を過ぎて県道に出ると、「七曲り」と呼ばれる峠の急坂になっていて、脇に作られた歩道を登って行きます。ここからが全行程中で一番きつい所です。



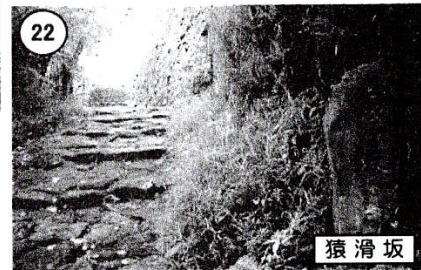
七曲り



見晴し茶屋への階段

(21) 「新編相模国風土記稿」には「殊に危険、猿猴といえども、たやすく登り得ず、よて名とす」と、難所らしい坂の名の由来が書かれています。県道の横断歩道がかかっている辺りが、当時の「猿滑坂」でした。一旦は歩道橋で県道を渡り、猿滑坂の上りはまだ続きます。この辺りは野生の猿が多いそうです。

(21) 急な階段を登りきり少し歩くと、右に見晴らし茶屋へ上がる階段があります。佐倉の飯野観音に匹敵する急な傾斜です。余力のある方は階段を上って見晴らしをお楽しみ下さい。



猿滑坂



追込坂

(23) 追込坂は「新編相模国風土記稿」のふりがな(万葉がな)をみると、フツコミ坂といったのかも知れません。甘酒茶屋までのゆるい坂道の名です。この先、追込坂を過ぎると、今日一番楽しみにしていた甘酒茶屋まであと少しです。



甘酒茶屋

甘酒茶屋は県道に面しており、この自家製甘酒(400円)はまさに絶品です。大げさでなく、一般の甘酒とは別物、別格です。是非一度お試しください。あべかわ、いそべ巻き、ところ天などもあります。体調を崩された方は、2時45分に、私達のバスが通りますので、茶屋の前のバス停でお待ち下さい。元箱根まで、10分ほどで行きます。



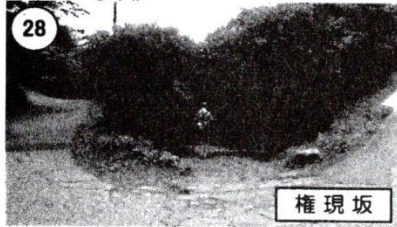
(25) いよいよ、最後の行程で元箱根まで1.6kmです。街道は茶屋の後ろを通っていますので、駐車場を横切って裏手にまわって下さい。甘酒茶屋から400mのところ県道を横断します。すぐそばに旧街道石畳のバス停があります。



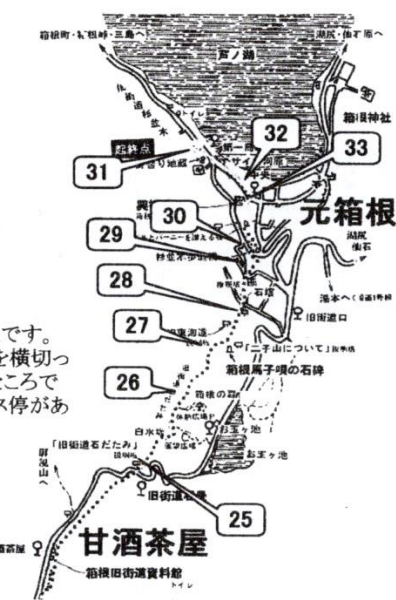
白水坂

(26) 於玉坂を過ぎ、白水坂、権現坂とひたすら登ります。この辺りは石畳が1kmに亘って続く、旧街道ハイク中一番長い石畳の道です。

(27) この箱根旧街道は昭和35年、国から「史跡」として指定されました。江戸時代の初め、それまで利用されてきた湯坂道の代わりとして利用されるようになったもので有名な「箱根八里」は、この道です。この道に敷かれている石畳は延宝8年(1680)に江戸幕府が敷設したのですが、其の後、元年(1863)孝明天皇の妹和宮内親王が14代將軍家茂のもとに降嫁される際に全面的に改修されたと云われています。



権現坂



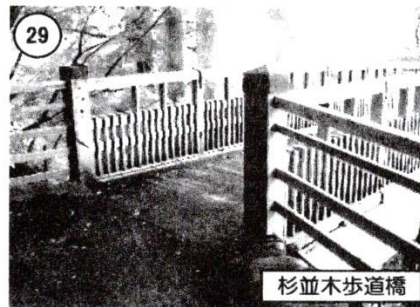
(26) 於玉坂を過ぎ、白水坂、権現坂とひたすら登ります。この辺りは石畳が1kmに亘って続く、旧街道ハイク中一番長い石畳の道です。



天ヶ石坂

(28) ひたすら登りだった道もやがて下りになり、変わり、ホッと一息。一般車道を横切りながら権現坂を下りますが、足も疲れが出るころです。滑らないよう、転ばないように注意しましょう。

木立の茂みが無ければ眼下に芦ノ湖が広がる絶景のところですよ。



杉並木歩道橋

(29) 急な滑りやすい坂を下りきると杉並木歩道橋に出ます。最後まで、気を抜かないで石畳の坂をお楽しみ下さい。



杉並木入口の一里塚



(29) 急な滑りやすい坂を下りきると杉並木歩道橋に出ます。最後まで、気を抜かないで石畳の坂をお楽しみ下さい。



ゴールの杉並木

(30) 杉並木歩道橋の階段を下りて旧街道は終わりです。すぐ右手の小道を下って興福院を通ると元箱根の町並みです。お疲れさまでした。

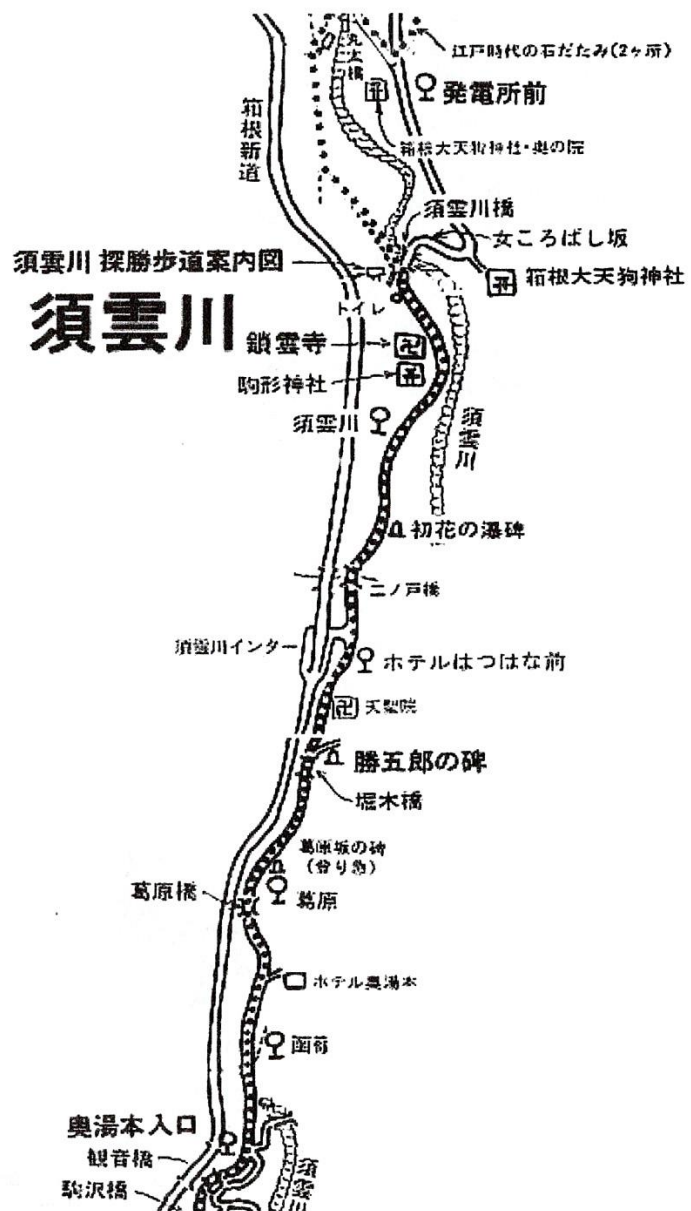
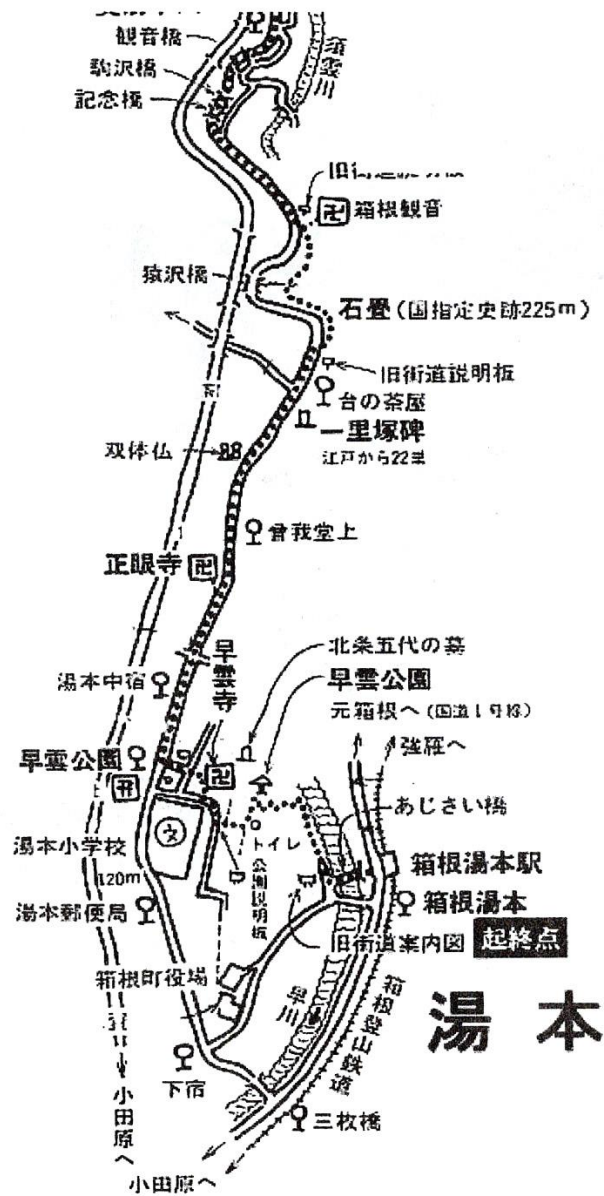


箱根神社第一鳥居

(31) 時間にゆとりのある方は、鳥居をくぐって約400m行くと旧東海道杉並木の入口に第24番目の一里塚があります。これでAコースの方は2里をあるいて、一里塚を3つ見ることになります。

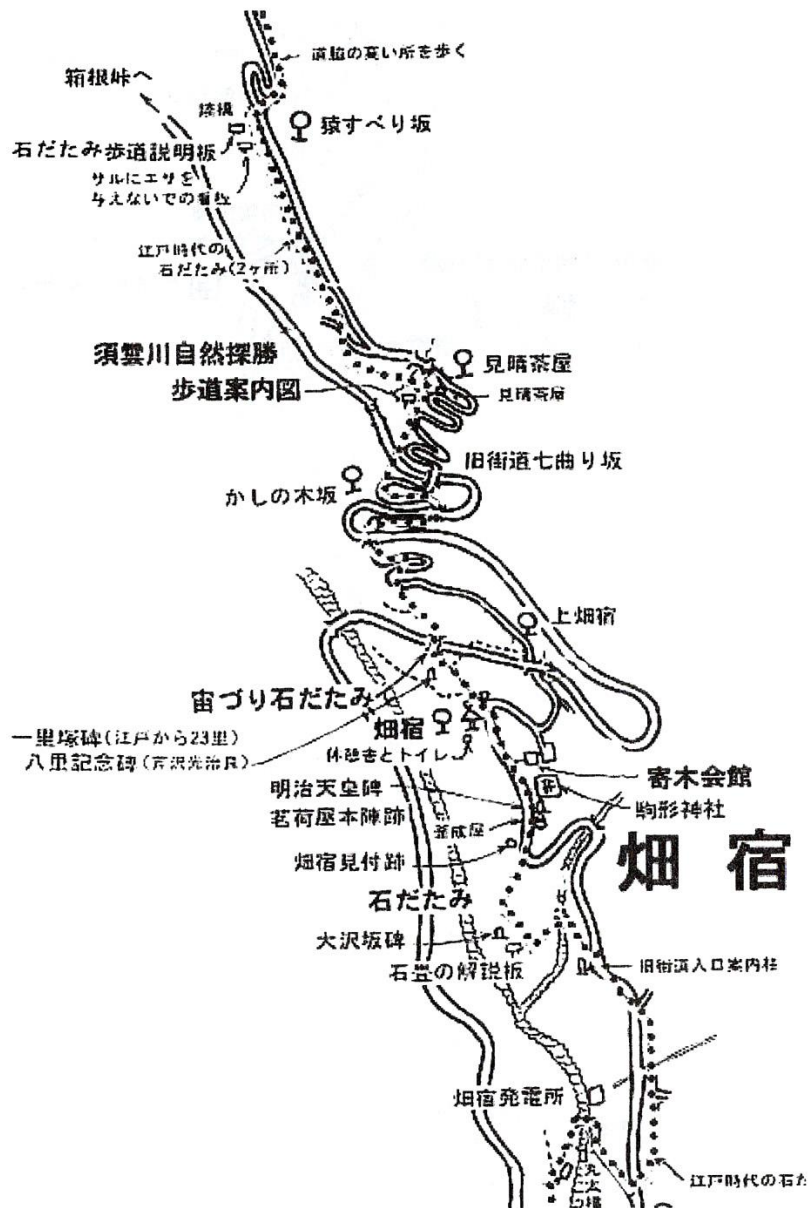
(32) 興福院から湖畔の道路に出たら、箱根神社の第一鳥居とは逆方向に歩き、次の信号を右折して、100mほど坂道を登ると右手に無料駐車場の八丁パーキングがあり、そこが集合地点です。

3時20分までにお集まり下さい

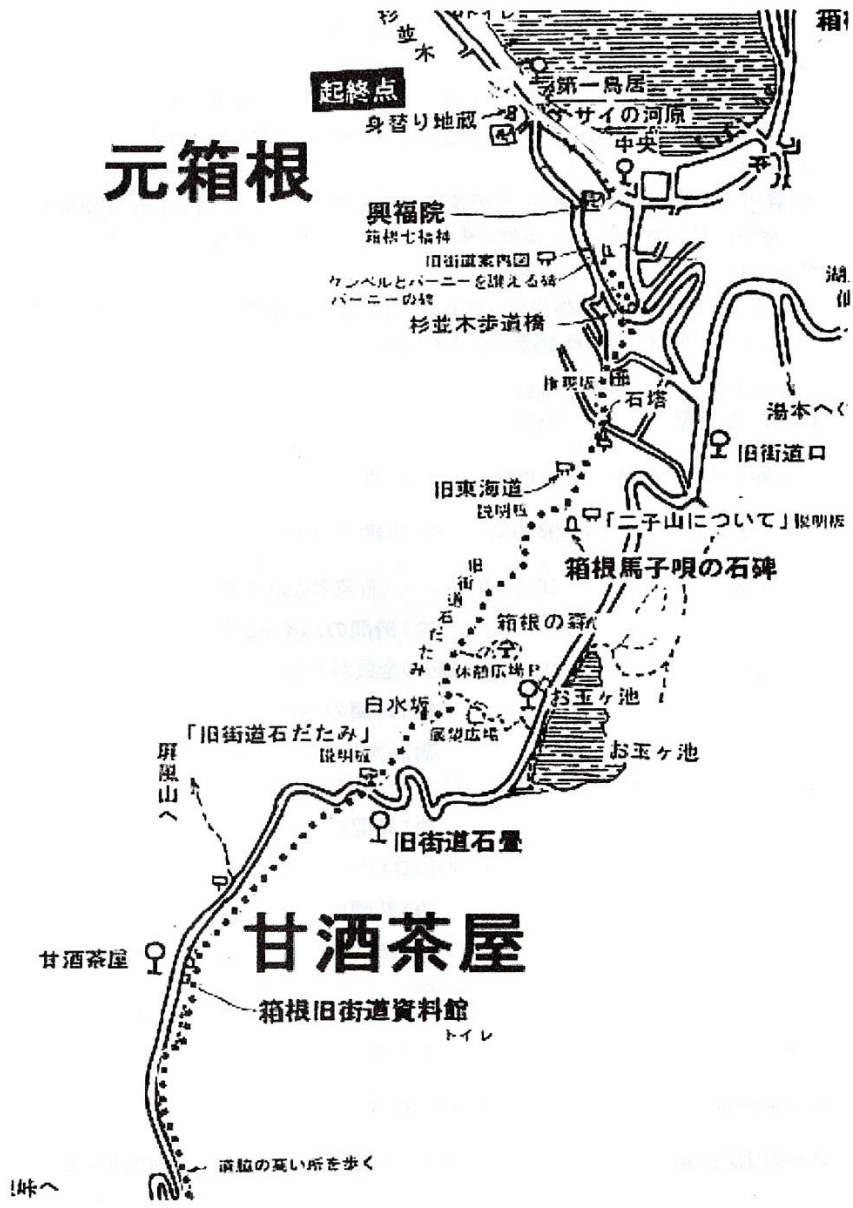


須雲川 探勝歩道案内図

須雲川



元箱根



ハイキングコースは、基本的に下記の3通りを選択出来ます。

Aコース

箱根湯本→須雲川→畑宿(昼食・休憩)→甘酒茶屋→元箱根 (約10km 約4時間)
石畳の登り坂が続きますので、例会の16キロより、かなりきついです。

Bコース

須雲川→畑宿(昼食・休憩)→甘酒茶屋→元箱根 (約6km 約3時間)
途中に長い階段があり、通常の例会より、やや、きついです。

Cコース

須雲川→畑宿(昼食・休憩後バス移動)甘酒茶屋→元箱根 (約4km 約2時間)
昼食後、畑宿から難所を避けてバスで移動しますが、十分に楽しめます。

下記の時刻は、バスの予定時刻です。

ユーカリが丘駅 6:30 出発
↓
高速湾岸線 大黒PA 8:00頃 トイレ休憩
↓
小田原厚木道路小田原PA 9:30頃 トイレ休憩
↓
箱根湯本 湯本大橋 10:00頃 Aコース希望者のみ下車
約1時間のハイキング (Aコースのみ)
↓
須雲川 バス停 10:30頃 残りの全員が下車
約1時間のハイキング (A、B、C 全員)
↓
畑宿 駒形神社または待機中のバス内で昼食
畑宿寄木会館 駐車場 13:00 Cコース希望者は甘酒茶屋へ1号車で移動
約1時間のハイキング (A、Bコースのみ)
↓
甘酒茶屋 バス停 (14:45) 2号車は歩けなくなった方を拾って元箱根へ
約1時間のハイキング (A、B、C 全員)
↓
元箱根 八丁パーキング 15:20 集(厳守して下さい)
" " 15:30 出発
↓
小田原厚木道路 大磯PA 16:15頃 トイレ休憩とおにぎり弁当の積み込み
↓
高速湾岸線 大黒PA 18:00頃 トイレ休憩
↓
ユーカリが丘駅 19:30頃 順次、京成臼井駅→京成佐倉駅に回ります

今回のハイキングコースのすぐそばに県道732号線があり、30分おきに箱根登山バスが走っています。参考までに当日の時刻表を掲示しておきます。

須雲川	10:26	10:56	11:26	11:56	12:26	12:56	13:26	13:56	14:26	14:56
畑宿	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00
甘酒茶屋	10:38	11:08	11:38	12:08	12:38	13:08	13:38	14:08	14:38	15:08
元箱根港	10:50	11:20	11:50	12:20	12:50	13:20	13:50	14:20	14:50	15:20

ハイキングの途中で、何かあった時は、下記の携帯電話にご連絡下さい。
但し、山の中なので、通信状態は悪いと思います。

緊急連絡用携帯電話番号

代表	菅 勇二	070-6643-2912
副代表	高田 孝	090-5530-6830
"	伊藤定市	090-6181-4615

もしも、集合に遅れた方は、下記をご利用下さい。

箱根登山バス	元箱根→箱根湯本	930 円	約 35分
小田急電車	箱根湯本→新宿	1,150 円	約 90分
都営新宿線	新宿→本八幡	360 円	約 40分
京成本線	京成八幡→ユーカリが	360 円	約 30分

メモ